

## 和歌山と移民

和歌山県では、明治初頭から海外移民が始まり、行き先は、東南アジア、太平洋諸島、オーストラリア、ハワイ、北中南米、満州など広範囲にわたっています。移民数は戦前（明治32年～昭和16年）で30,980人と全国で6番目に多く<sup>〔注1〕</sup>、海外から郷土への送金額は明治・大正年間では全国1位であったと言われています<sup>〔注2〕</sup>。

注1「海外移住統計(昭和27年度～平成5年度)国際協力事業団 1994年 p133  
注2「和歌山県移民史」和歌山県 1957年 p104

# 和歌山市民図書館 移民資料室

## 和歌山県における移民の先人



ほんだ わいちろう  
本多 和一郎

紀の川市  
1852年(嘉永5年)～1895年(明治28年)

慶応義塾に学び帰郷。私塾共修舎を開設し、渡米相談所として「米国遊学事務所」を設ける。塾生には、貿易商の堂本善之進と園芸家の憲太郎兄弟、神学博士の滝本幸吉郎、ハワイで法律事務所を開設し日本人労働者の労働条件改善に貢献した根来源之などが在籍。移民して活躍した人物を多数輩出した。



みなべ うめたろう  
皆部 梅太郎

和歌山市  
1875年(明治8年)～1940年(昭和15年)

20歳ごろから、職業仲介(ボス)として活躍し勤業社を創設。後に日米銀行を経営。晩年は安孫子久太郎らと共に大和コロニー(カリフォルニア州中部のリビングストン)建設に参画した。



すぎもと  
ヘンリー 杉本

和歌山市  
1900年(明治33年)～1990年(平成2年)

渡米後、パリへ留学しサロンドトンスに入選。米国に帰って各地で展覧会を催すなど名声を博すが、太平洋戦争勃発に伴い強制収容所へ入所。収容所における記録絵画は終生のモチーフとなった。



くのぎへえ  
工野 儀兵衛

美浜町  
1854年(安政元年)～1917年(大正6年)

京都で大工の修行をし、帰郷後大工職人として活躍。防潮堤工事を請け負えなかった後、単身で横浜からカナダへ渡った。その後三尾の人たちを呼び寄せ、ステブストンに第二の三尾村が誕生した。



かげつ えいきち  
花月 栄吉

御坊市  
1883年(明治16年)～1967年(昭和42年)

カナダ渡航後山林業を営む。北米材の輸出事業を始め、山林から海岸へ鉄道を敷設した。第二次大戦前は日本人会長、仏教会長等をつとめ日系人社会に貢献した。戦後はトロントに移住し貿易商を営んだ。



わだ いさむ  
和田 勇

米国 ～ 御坊市  
1907年(明治40年)～2001年(平成13年)

米国ワシントン州に生まれ、4歳のころ、父の実家(現在の御坊市)に預けられた。帰米後農産物店で働き、太平洋戦争中はユタ州に疎開。戦後、日本人水泳選手を自宅に招いた。東京にオリンピックを誘致するため、中南米各国を訪問し重要な役割を果たした。晩年は、日系人の日系人引退者ホーム建設に尽力した。



まつばら やすたろう  
松原 安太郎

みなべ町  
1892年(明治25年)～1961年(昭和36年)

ブラジルへ移住して契約農に従事し、通訳、耕地勤務を経て自作農となる。経営は順調に進み珈琲園・牧畜等を営む大農場主となる。戦後、ヴァルガス大統領に願い出てブラジルへの日本人移民再開に貢献した。



たけなか ぎすけ  
竹中 儀助

白浜町  
1889年(明治22年)～1965年(昭和40年)

ブラジル渡航後竹中商店を設立し、ブラジル国内の農業技術普及に貢献。ブラジル和歌山県人会の初代会長となり、和歌山県庁と連携し和歌山不動産株式会社による集団移民を実現させる。



みなみ や えもん  
南 弥右衛門

すさみ町  
1879年(明治12年)～1973年(昭和48年)

渡米後、自作農として農業に従事。南父子農産商会を設立し野菜の販売はニューヨークにまで及んだ。太平洋戦争中は家族とは別の収容所に強制収容され、長男弥太郎らはコロラド州で農業を始めた。戦後はサンタマリア市で農業を再開した。



さとう とらじろう  
佐藤 虎次郎

埼玉県 ～ 古座川町  
1864年(元治元年)～1928年(昭和3年)

埼玉県本庄市生まれ。米国ミシガン大学を卒業。結婚して和歌山県古座川町に移り、アラフラ海の木曜島に佐藤商店を開設し採貝業を営む。帰国して衆議院議員となり、横浜新聞を創刊するなど幅広い活動を行う。その後朝鮮半島に渡り農林業を営んだ。





# 和歌山市民図書館 移民資料室

和歌山県は全国有数の移民送出県です。海外を目指した先人の歴史を後世に伝えていくため、1984年12月、和歌山市民図書館3階に移民資料室が開設されました。

所蔵資料は主に日本から海外への出移民に関するもので、明治以降に発行された図書、雑誌、新聞のほか、絵画、写真など約1万点。資料を通して、日系人のルーツ探しや学術的研究およびプロジェクトに協力し、国際交流に貢献しています。今後は、特に次世代を担う若い人たちに、日本人の海外移住の歴史や日系人について理解を深めてもらうことを目指しています。



表紙使用写真



みかど魚店  
『櫻府平原之鏡』(開原五雨/編 櫻樹社 1911年)より

米国サクラメント市における和歌山県人 藤田龍吉、広島県人 宮崎勘次郎 両氏の共同経営による魚市場。



# 日本人の主な移住先と移民資料

1866(慶応2)年に鎖国令が解かれ、御免の印章と呼ばれる今日でいうパスポートが発行されました。この時以来すでに150年以上が過ぎ、海外へ移住した日本人は100万人を超えています。初期は出稼ぎ目的の人が多く、移住先では少数派(マイノリティ)となり差別と排斥に苛まれ、苦難が続きました。しかし、日本人移民は移住先に定着するようになり、地域や国の発展に寄与するようになっていきました。ブラジルでは、「ジャポネス ガランチード/日本人は信用できる」と言って、日系人は国民から厚い信用を獲得しています。

## 雑誌

移民が盛んであった頃に発行された雑誌です。移民に関する記事がある大学等の紀要もあります。



『移民』日本植民通信社 1923年~1935年



『ブラジル』日伯協会 1927年~1992年

## 邦字新聞

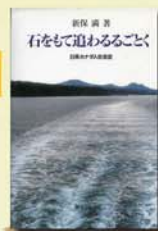
ハワイ、アメリカ、カナダ、ブラジルなどで発行された邦字新聞です。

- 新世界
- 羅布新報
- 校友日報
- ユタ日報
- 日本人
- コロラド新聞
- 大陸日報
- 布哇殖民新聞
- 日布時事
- 聖州新報
- 日伯新聞
- 伯刺西爾時報



## カナダ

1877年、長崎県出身の永野万蔵がブリティッシュコロンビア州に上陸。和歌山県からは、1888年に工野儀兵衛が渡航し、その後、漁業・林業に従事する日本人が増える。



『石をもて追われるごとく』新保道/著 御茶の水書房 1996

## 満州

1931年の満州事変以降、日本政府が国策として満州移民を推進した。昭和初期の恐慌などで疲弊した農村では、村ごと移住するケースもあった。

## 覽要村榮彌



『彌榮村覽要』山崎芳雄/編 満州移住協会 1936

## フィリピン

1901年に始まるルソン島のベンゲット道路建設に多くの日本人が従事した。その後、ミンダナオ島ダバオでマニラ麻栽培に従事する日本人が増えた。



『ダバオ開拓記』柴田賢一/著 興亜日本社 1942

## オーストラリア

1882年、和歌山出身の中山奇流が木曜島に来島。採貝業に従事する日本人は、和歌山県出身者が大多数を占めた。オーストラリア本土では、1892年に吉佐移民会社を通してクィーンズランドへ砂糖黍農園労働のための渡航が始まった。



『第二の故郷』ノリーン・ジョーンズ/著 創風社出版 2003

## ニューカレドニア

1892年、ニッケル鉱山労働のため600人の日本人が渡航。現在も約8千人の日系人がいると言われる。



『マブイの往来』津田睦美/文・写真 人文書院 2009

## ハワイ

1868年、153人の日本人が砂糖黍農園労働のため渡航した。1885年からハワイ政府との協定により官約移民として約2万9千人が渡航した。昭和初期には、日系人はハワイの人口の40%近くを占めていた。



『布哇一覽』武居熱血/著 本重興寿堂 1914

## ペルー

1899年、第1回集団移民790人が渡航。農園労働は過酷を極めた。その後、都市部での商業や近郊農業につく日本人移民が増えた。第二次世界大戦中には1800人近い日系人が米国に連行された。



『ペルーの日本人移民』アメリカ・モリモト/著 日本評論社 1992

## アメリカ合衆国

明治初期から高賃金を求めて農園、鉱山、鉄道等の労働に従事する日本人が増える。1924年に排日移民法が成立し米国への移民は事実上不可能となる。第二次世界大戦中、米国内在住の多くの日系人は強制収容所に抑留された。1988年、レーガン大統領は日系アメリカ人補償法に署名。



『来れ日本人』石田環治郎/編 開新堂 1887

## ブラジル

1908年、第1回集団移民781人が渡航した。その後サンパウロから延びる鉄道沿線に日本人植民地が増え、1924年、信濃海外協会はアリアンサ移住地を建設。1929年にはアマゾン開拓が開始された。昭和初期にはブラジル移民は国策となり、サンパウロ州にバストスなどの植民地が建設された。



『共生の大地アリアンサ』木村俊/著 同時代社 2013

## 北米日本人収容所記録絵画



食堂 ヘンリー杉本/画

第二次世界大戦中、米国に在住する10万人を超す日系人が米国政府により強制収容所に送られました。戦争中という異常な環境の中、和歌山市出身の画家ヘンリー杉本は、日系人の生活や苦悩などを記録絵画として描き、平和と人権の尊さを今日の我々に伝えています。